
 関西支部長からのメッセージ

グローバル化の加速とものづくり



ダイキン工業(株) 常務執行役員
岡田 慎也

少し明るさを取り戻しつつあるといわれる日本経済だが、足元の景気に一喜一憂している間にも、経済のグローバル化は加速していく。関西支部のある近畿一円には、家電をはじめ電子部品、素材、また環境技術分野の世界的なメーカーが数多く存在している。大きな経済変動の中で、不本意な低迷に見舞われたこともあるが、今後成長が期待される分野が集積しており、次への飛躍を期して力を蓄積しつつある。コモディティー化、デジタル化された製品ではメーカーによる機能や性能の差は少ないといわれる。工場における高度なすり合わせは不要となり、技術蓄積がなくても製品組立が可能となり、日本の製造業の優位性が失われたともいわれている。デジタル化の波は、かつての産業革命に匹敵する大きな産業構造の変化であり、技術蓄積のない持たざる新興国の方が、むしろ先行投資もふくめて大きな蓄積を持つがゆえに、その回収負担が大きい先進国より優位になるという変化でもある。日本は、過去の成功体験にしがみついて、この大きな変化をとらえて、チャンスに活かすことができていないという警鐘には、真摯に耳を傾けなければならない。一方で、こうした議論には、何かしら少し本質を見失った面もあるように思える。先進国と新興国の市場を一律にとらえることはできないし、新興国自体も地域や国によって全く異なる市場特性を示す。技術蓄積のないところから、組み合わせだけで何か新しい魅力的な製品が、予定調和のように産み出される道理はない。新興国市場における低価格化の要求は次元の違う厳しさであり、品質に対する要求も必ずしも先進国と同じではないが、一たび品質

問題が発生すれば、世界に瞬時に情報が広がる。また、低価格とはいえ、基本性能や信頼性に対する期待は大きい。温度や湿度、塵埃などの過酷な使用環境や輸送保管環境、不安定で変動の激しい電源環境等、むしろ信頼性の確保のためにコストをかける場面もある。マーケティングのために新興国に駐在する仲間へ聞けば、やはり日本製品に対する期待やあこがれは根強く、そして信頼は高いという。日本国内と同じ仕様が求められるわけではないが、基本機能や性能が当たり前で発揮でき、仕上がりや操作感覚の節度といった細部の気配りに手を抜かないものづくりは、決してニッチな顧客だけの心をとらえているわけではないようだ。冷静に見つめなおせば、お客様の望まれている機能や信頼性を、期待される価格で提供するというものづくりの基本に、従来となんら変わりはないというのだ。むしろ、目先のコストに目を奪われ、工場を移し、人を切り捨て、人と人のつながりを断ち切り、ものづくりの基本を忘れるところに失敗の本質がありそうだ。顧客のいる現場にしっかりと自分の足で立ち、顧客の声に真摯に耳を傾け、顧客の期待にしっかりと応えるものづくりが必要なのだ。地道で愚直な改善活動に裏打ちされた合理的なものづくり、ベテランの技と経験に敬意を持って、しっかり若手に伝承すること、そして彼らの成長を皆で喜び支えるといった、基本の徹底と人の育成が必要なのだ。日本の産業競争力を向上させ、将来にわたって豊かで文化的な国の未来を切り開くために、なすべきことの第一は人づくりなのだ。「ものづくりは人づくり」とは名言である。